



さあ、始めました！

本当はえろいホロライブ——『えろホロ！』のお時間です！

今週も、地上波では到底お見せできない倫理観ガン無視の60分となっておりますので、皆様どうぞお楽しみください！ MCは毎度おなじみ、わたくし「セック鈴木」がお送りいたします！

それでは早速、今週のゲストをお呼びしましょう。

ホロライブゲーマーズから、大神ミオちゃんに来てもらいました！

「ど、どうも……うちうち、うちだよ、大神ミオだよ」



ゲートのカーテンが開かれ、ミオちゃんが登場すると、観客席から野太い歓声が上がりました。早くもスタジオの空気がヒートアップしていきます。

ミオちゃん、こんにちわ。

おや、少し表情がぎこちないですねえ？

「えっと、はい……うち、えろホロに出るのは初めてなもので」

そういうええそうですねえ。

ミオちゃんの出演を望む声は多く寄せられていたんですよ。

アンケートでもね、この通り……『オカズにしているホロメン』『レイプしたいホロメン』『ママプレイしたいホロメン』『喘ぎ声があぐさうなホロメン』

『おまんこがちよろそうなホロメン』……などなど、ここらへんのランキングで上位の常連でしたから。

しかしながら売れっ子アイドルだけあってなかなかスケジュールを確保することができず……今回、ようやくお招きが実現したというわけです。

見ての通りミオちゃんは、百人の男が百人とも振り返るようなドスケベボディですからねえ。みなさんが熱望する気持ちもよくわかる。

最近またおっぱいが大きくなりましたよね？

公式プロフィールじゃ98でしたけど、今は？

「い、今はあ……ちょうど100センチです」

お、三桁の太台に乗りましたか。こりゃあめでたい。

ミオパイでシコるリスナーがまた一段と増えそうですね。

で、お尻の方はどうなんですか？

「お尻は……って、きゃあ！」

カメラマンがミオちゃんの背後に回り込み、スカートを捲ってデカケツをスクリーンに映し出しました。パンティの食い込む巨大な尻肉に、オーディエンスが猿小屋のような奇声を発して歓喜します。



「ちょ、ちょっともう、どこ撮ってるんですかあー！」

まあまあ、いいじゃないですか減るもんじゃなし。
で、答えは？

「うう。お尻のサイズは……105センチ、だったかなあ……？」

うひょお、なんという安産型！

バックハメしながら両手で鷲掴みにすれば、さぞや気持ちいいでしょうねえ。

ミオちゃんは顔を赤らめる一方、観客席が同意の声で溢れます。
さて、前菜を提供したところで、本番と参りましょうか。

今週の企画は、こちら！

『予告エロドッキリ！』

当番組ではもうおなじみの企画ですね。

ホロメンに一週間内のエロドッキリを予告し、それがなんだったのかを予想してもらおうというコーナーになっております。エロドッキリの数は、七つ！果たしてミオちゃんはいくつ正解できるのか？

答え合わせの前に……ミオちゃん、この一週間はどうか？

「全然気が休まらなかったですよ。あれもドッキリ？ これもドッキリ？ あの人は仕掛け人？ この人も？ って……ずうっと構えちゃって。ただ、自信はあります！ 結構わかりやすいのも多かったので！」

おお、自信满满ですねえ。

では、ひとつずつ回答を見ていきましょう。

ミオちゃん、お願いします。

「はい！」

ミオちゃんがフリップを裏返します。

「ボイス収録のときのディレクターさんが、露骨にエロいのを要求してくる……です！」

これは……見事！

正解です！

「やったー！」

これはもう確信していた感じですか？

「そうですね。クリスマス用のイチヤイチャボイスを収録してたんですけど、ここでちゅば音お願いしますとか……我慢できなくなった彼氏におまんこをイジられてる感じで喘いでとか言われて……おかげでうちのボイスだけR18になっちゃったんですよ」

ってことは、言われた通りに収録するにはしたんですね？

「ま、まあ……はい。もし本物のディレクターさんだったら一大事なので……」

これはこれは、次のボイス販売が楽しみですね。

では次の答えをどうぞ。

「はい。その日一日、乗り合わせたすべてのエレベーターでお尻を触られる、です」

ミオちゃんはドヤ顔をして、

「これも簡単でしたね。うち、電車で痴漢されることはよくあるんですけど、エレベーター内で……それも、乗り合わせたすべてのエレベーターで触られることなんて、今までありませんでしたから」

はあ……そんなことがあったんですか？

「え。なんですか、そのリアクション？ あれも番組の仕掛けだったんですよ？」

いや、そんなことは？

台本の手違いかと思ひ、スタジオ裏を確認してみますが、スタッフの突き出したカンペには「知らん」と書かれています。やっぱりそれは当番組の仕業ではないようですねえ。

「え、えええええ！？ じゃあ、あれ全部偶然って……ことお！？」

ちなみに何回触られたんですか？

「ご、五回です……」

それは災難でしたねえ……と、擁護してあげたいところですが、こんなドエロいデカケツが目の前にあったら触りたくもなるでしょう。そのエレベーター、事故とかで止まらなくてよかったですねえ。もしそんなことになったら確実にレイプされてましたよ？

「そ、そんなエロ漫画みたいなこと人生で二度も起こりませんよ」

ん？ 二度も？

「わわわ！ つ、次いきましよう！」

何やら気になる発言でしたが、その真意はまたの機会に深堀りするとしみましょう。

ではミオちゃん、次の回答をお願いします。

「はい。配達員のおじさんがめっちゃ勃起してて、うちにフェラ抜きを要求してくる……です。どうですか？ こ、これは間違いないですよね？」

スタジオが沈黙に包まれます。

ミオちゃんの頬に一雫の汗が、たらり。

「う、嘘でしょ！？ あれも仕込みじゃなくてガチ！？」

まあ、そういうことになりますねえ……

ちなみに……この一週間、ミオちゃんのお部屋にはカメラを仕掛けていましたので、我々は偶然にもその現場を押さえていました。そのときの映像がこちらになります。

インターホンが鳴り、ミオちゃんが『はあゝい』と玄関を開きます。

『お、お届け物です……ふう、ふう……』

その配達員は、妙に息が荒く、汗だくで、女の子なら生理的嫌悪感を抱いてもしようがないデブ親父でした。しかし、さすがはミオちゃん……嫌な顔ひとつしていません。



『ご苦労さまでーす』

『印鑑か、サインを……』

『はーい……え？』

ミオちゃんが、配達員の下半身を見て目を見張ります。

その股間は誰の目にも明らかかなほど勃起していました。

ミオちゃんは苦笑いで気づいていないフリをしています……どうやら配達員は、ミオちゃんが気づいたということに気づいたようです。ミオちゃんがさっさとサインをして玄関を閉めようと思いますが、その手を強引に掴みます。

『ちょ、ちょっと、なんですか？』

『そ、その身体……エロすぎ……』

『え？』

『あ、あんたのせいで、こんなになったんだ……このままじゃ、外を出歩けないだろ。せ、責任、取ってくれないと』

『そ、そんなこと言われても……』

『何もやらせろとまでは言わないから……口でさ、抜いてよ……』

困惑するミオちゃんですが……このおじさんの言い分もあながち間違っていないですね。ミオちゃん、自宅だからかタンクトップにショートパンツという実に油断した格好で人前に出てるんです……このドスケベボディで、ですよ？

これは勃起不可避でしょう。

そしてミオちゃんは観念したように跪いて、

『わ、わかりました。おちんぽ、しゃぶります……』

あらら、物わかりがいいですねえ。
スタジオに笑い声が木霊し、ミオちゃんは真っ赤になって弁明をします。

「ち、違っ……これは、番組の仕込みだと思ってたから！ 撮れ高が必要だと思っただから、その……あああ映さないでー！ 止めてくださーい！」

ミオちゃんの悲痛な叫びも虚しく、スクリーンに人気アイドルのフェラ顔が流れます。



『んぢゅう……れろお♥ ぢゆるる、ちゅぼっ♥ ちゅぼっちゅぼっ♥』

『おおッ……お嬢ちゃん、上手だねえ。いつも彼氏ので練習してるの……?』

『そ、そんなことは……ぢゆるるっ♥ ンれろっ♥』

『おじさんのちんぽはどうだい？ おじさん、顔はこんなだけど、こっちだけは自信あるんだよ……』

『は、はい……すっごく大きくて、美味しいおちんぽですう♥ べっとりこびりついたチンカスが、とってもオス臭くて……んちゅ♥ ぢゆるれる♥ ぢゅほんっ♥ んんっ……ああ、うち……名前も知らないおじさんのちんぽ、言われるがままおしゃぶりしちゃってるう♥』

『こら！ 誰が休んでいいって言った！』

『す、すみませ……んんぐう♥ んこっ♥ じゅぼぼっ♥』

『ふひ。いい顔だあ……美人の顔が、ちんぽ啜えてブサイクに歪むのを見ると最高に滾るんだよねえ……』

『やあ、見ないれ……じゅぶっ♥ じゅぶぶ♥ じゅず、じゆるれるおお……ぐぼっ♥ ぐぶ、ぢゆるるるるる♥ ぢゅっぽぢゅっぽぢゅっぽぢゅっぽ♥』

ミオちゃんの迫真のフェラに、打って変わってギャラリィが静まります……えろホロは観客席でのオナニーを禁じてませんからね。皆さん、ちんぽこシコるのに忙しいようです。一方でミオちゃんは、無関係のおっさんに本気ご奉仕してるシーンを撮られてしまい、両手で顔を覆っています。

『ぐうっ……だ、出すぞ!』

『むぐううううううう——ッ♥』

『ほら、飲めっ……これが好きなんだろ、スケベ女!』

『ごくんっ♥ ごくんっ♥ ごくんっ♥』

言われるまでもなく、という顔でミオちゃんがおじさんのザーメンを飲み込みます。

長い射精を終えてミオちゃんのお口からちんぽが引き抜かれ、白濁した粘液が唇と亀頭の間は何条もの糸を垂らしました。鼻からも精子が垂れて……いやあ、エロいですねえ。

『じゃ、じゃあ……今後はみだりに人を勃起させないよう、気をつけるんだよ』

『ひゃい♥ しゅみましえんでひたあ♥』

おじさんは最後にミオちゃんの髪でちんぽを拭くと、玄関を開けっ放しのまま逃げていきました。

これで二問連続の不正解です。

その後も、ミオちゃんの回答はことごとく不正解に終わりました。ミオちゃんの毎日には、我々の用意したドッキリを上回るエロイベントが日常茶飯事的に発生してたのです。これはある意味、ミオちゃんのスケベレベルを見誤っていた番組側の落ち度とも言えます。

ですがこちらにも、七つ目のドッキリはなかなかハードなものを用意いたしましたよ!

さあミオちゃん、いかがですか?

『は、はい……』

最初の勢いはどこへやら、ミオちゃんはすっかり意気消沈です。

さあ、突き出されたフリップに書いてあるのは……

『酔っ払ったおじさんとタクシーで相席になって、いろいろされちゃう……です』

おお……これは……

見事、正解です!

『や、やったあ! って、喜ぶべきなのかうちは……?』

おや、正解したというのに複雑そうですねえ?

ミオちゃん、どうしてこれだと思ったんですか?

『だ、だって、この一週間でこれが一番やばかったから……』

どうやばかったんです?

『えっとお……その日はフブキと一緒に仕事があって、二人でタクシーに乗り込んだんです。そしたら酔っ払ったサラリーマン風の人が、俺も一緒に乗せてくれて割り込んで……うちはやんわり断ったんですけど、フブキが『まあいいじゃん』って……あ! ま、まさか! フブキも仕掛け人!?!』

ふふふ、その通り。

実はこの日……フブキちゃんには仕掛け人としてエロドッキリを手伝ってもらいました。

『く、くっそ〜! あいつ〜! 道理ですんなり受け入れたわけだ!』

で、ミオちゃん？
さつきはおじさんに「いろいろされちゃう」なんて曖昧な表現をしています
したが、具体的にはナニをされちゃったのかなあ？

「そ、それは……」

言えませんか？

では、タクシーに搭載していた隠しカメラで答えを見てみましょう。
VTR、スタート。

「ンおおっ♡ おほっ♡ おオン♡ や、やめっ……やめてくだしい♡」

スクリーンに映し出されたのは、背面座位でおじさんにつつりハメられて
いるミオちゃんの姿です。今日一番の歓声が沸き起こり、ミオちゃんも真
っ赤な顔できゅきゅと喚いています。

ちよっと時間を戻してみましようか。

タクシーが発射してから間もなく、おじさんがミオちゃんにセクハラを仕
掛けます。

「ぐふふ……お姉ちゃん、エッロい身体しとるのお」

「あ、あの……困ります……」

おじさんはミオちゃんの肩を抱き寄せ、デカ乳を遠慮なく揉みしだきま
す。

「やめてくださっ……せ、セクハラですよ？」

「これくらいで堅いこと言うんじゃない。ワシの若い頃は、女なんて触られて
なんぼだったんだぞお？」

「ほうれ、こっちの具合はどうだ？」

「あっ♡ ひいん♡ おまんこっ……指、入れちゃ……ンほっ♡」



パンティの中におじさんの指先が入り込み、割れ目をぐちゃぐちゃに掻き回されちゃっていますねえ。この水音……聞いているだけでも、とんでもない量の愛液が漏れているのがわかりますね。

『くく、指にまんこがきゅんきゅん吸いつきおるわい。活きのいい肉壺だ』

『あひっ♡ そこ、らめっ♡ 擦っちゃ……おぐっ♡』

『ほれほれほれ、もっとエロい声聞かせんかい』

『あっへええ♡ あっあああッ♡ はああッ♡』

『お、いったか？』

『おっ♡ おっ♡ おんっ♡』

『おい、いったかと聞いとるんだが？』

『は、はいいいイきましたああ♡ イきましたからああ♡ 指、止めへ』

っ……ンお。お。♡』

あーあ、あっさりイかされて潮をぶち撒けてしまいましたねえ。ぶしゃぶしゃと愛液が飛び散って、スプリングラーみたいに車内を濡らしてしまうミオちゃん……その隙におじさんは勃起肉棒を取り出して臨戦態勢です。そそり立つデカマラを横目に捉え、ミオちゃんが震え上がります。

『や、やだ……どうして、そんなモノ出して……』

『カマトトぶるんじゃない。ちんぽ出してやることなんてひとつだろうが……ほれ、こっちゃ来い。ワシあもうちんぽが爆発しそうなんだ』

『やああ♡ フ、フブキ、助けてえ♡ このままじゃ、うち……こ、このおじさんに、おちんちん挿れられちゃう……レイプされちゃうよお♡ だめ、だめええ♡ 擦りつけないでえええ♡』

『ひひひ。レイプとは聞き捨てならんなあ……こんなところでびちゃびちゃにまんこ汁を垂れ流す、締まりのない穴に栓をしてやろうっていうんじゃないか。感謝しろよ、変態女！』

『ンっほオオオオオオオオオオッ♡♡』



おじさんはミオちゃんの巨尻を掴んで、一気にペニスを膣内に埋没させます。

ちなみにこのとき、フブキちゃんには助手席で狸寝入りをしてもらっています。運転手も当然、番組の用意した仕掛け人なので、後部座席で客がいきなりおっ始めようと気にすることなくハンドルを握っています。

『おおっこりやあ堪らん！　ぷりっぷりの肉ヒダが絡みついてくるわい！』
『やあっ♥　あんっ♥　ら、らめえ♥　ずぼずぼしないでええ♥』
『そう言われると、もっとやりたくなるのお。ほーれ、ずぼずぼ。ずぼずぼ』
『ンおっ♥　お、おッ♥　おんっ♥　お、奥う♥　ぶっといおちんぽが、ずこずこ突き刺さってりゅうう♥　恋人でもなんでもない人に子宮ノックされて……ああッ♥　頭がバチバチするよおおお♥』
『おいおい、そんな大声で喘いどったら周りに気づかれるぞお？』

ミオちゃんは、ハッとして手で口を塞ぎます。

この撮影、車内にいるのは全員番組の関係者ですが、周りを走っているのはガチの一般車両、一般人ですからねえ。実際この日、ミオちゃんに似ている女がタクシーの中でおっさんとやってた、なんて投稿がSNSに相次いだとか？

『そうだあ、そうやって我慢するんだぞお』

『んんっ、んっ……んっ♥　あっ♥　ひうっ♥　おっ……♥』

『ほれほれ、我慢だ我慢』

『ンひっ……あはあ　あ、あうっ♥　む、無理いい♥　こんなデカちゃんにおまんこパコられて、声我慢するなんて無理いいいい♥　うちの気持ちいいところ、いっぱい突かれて……もうとつくに上下関係わからされちゃってる♥　ザコまんこの分際で、おちんぽ様に逆らうんじゃねえって言われてるうう♥』

『おお、よくわかつとるじゃないか。お前みたいな淫乱は、そうやってへこへこ腰振ってればいいんだ』

『や、やだああ♥　こんなことしたくないのにいい♥』

『なんだ、本当は嫌なのか？　じゃあほれ、早くケツ振りを止めんと……このままでは中にどっぷり出してしまふぞお』

『しよんなのらめっ♥　中出しだけはらめええ♥』

『ぐふ。こんなちんぽを締め上げながらよく言うわい』

『だ、だって……おじさんのデカちん、本当に気持ちよくって……ほおっ♥』

や、やばっ♥　これ、やっべ♥　ケツ振り、止まんね♥　レイプおちんぽ相手に本気交尾かましちやってるう♥　うちの中で、ちんぽがびくびく震えて……だ、だめ♥　もうすぐ出されちゃう♥　出されちゃう出されちゃう

♥　出されちゃうのにいいいい♥　おまんこが言うこと聞かないよおおお
おお♥♥』



「んっほおおオオ——ッ♥♥　出され……ちやつ、たああ♥　タクシ
ーでたまたま乗り合わせただけの人に、ガチ種付け許しちゃったああ♥」
「くく、一番奥にぜーんぶ出してやるからなあ。おじさんの子供を妊娠するん
だぞ？」

「は、はひいいい♥」

ミオちゃんはアイドルらしからぬアへ顔を浮かべながら、恍惚の表情で腔
内射精に酔いしれています。女性として何よりも許してはいけない一線を簡
単に許し、快楽に屈する姿はまさしく……メスのそれですねえ。
ミオちゃん。このときも撮れ高とか考えてたんですか？

「え、えつと……正直……」

正直？

「気持ちよすぎて……途中から、ほ、他のことは考えられなくなってまし
た……♥」

赤裸々な告白に、観客席の野郎どもはやんやの喝采です。

で、ミオちゃんはこの後、おじさんにもう一発中出しされて気を失ってし
まうんですが……次に彼女が目覚めますまで、裏で面白いことが起きていた
んですねえ。それがこの映像です。

『ま、待ってください♥ 白上は今回、仕掛け人で……♥』
『知ってるよ。でも、あんなの見せつけられて落ち着いていられるかってんだ……どうせフブキちゃんも、親友が犯される声聞いてまんこ濡れ濡れなんだろ? 気持ちよくしてやるって言ってたからさあ、大人しく使わせろ!』

『んひああああアア♥ ナ、ナマちゃんぼ入ってきたああああ♥』



ミオちゃんは目を丸くして、観客席はどよめきます。

『う、嘘お? フブキもやられてたのお?』

ええ、実はそうなんですよ。運転手役の人がね、ちよっと我慢できなかったみたいでして……局の駐車場でやっちゃったようですね、ガチのアイドルレイプ。ゴムもつけずに何度も中に出したそうで。

ま、フブキちゃんもミオちゃんと同じでどうしようもないドスケベメスガキですし、こんなことは慣れっこでしょうから、実質無罪ってことで。

『む、無罪なわけあるかーっ!』

と、ミオちゃんのツツコミが炸裂したところで、そろそろお別れのお時間です。

フブキちゃんのレイプ映像はこの放送の終了後、今回のアーカイブと合わせて有料会員限定サイトにて公開予定ですので、続きが気になるという方はこの機会に是非ご登録を! 今なら新規加入者の中から抽選でホロメンの使用済みパンツが当たるキャンペーンもやっておりますよ!

それでは、次回のえろホロでお会いしましょう。















